

ていないので数量的表現は困難であるが，本年の寒候期に適用した範囲では，かなりの成績を挙げているように思われる。一方，公害問題が全国的な規模で取り上げられているなかで，燃料規制等による効果が，徐徐にはあ

るが現われている実状を考慮すると，さきの Flow Sheet は，これに対応して修正されなければならないであろう。

文部省特定研究「人間の生存と自然環境」シンポジウム

大 気 汚 染 と 気 候 変 化

日 時：12月6日（水）9時30分～17時

会 場：東京大学医科学研究所講堂

（東京都港区白金台町4丁目6-1）

TEL (03) 443-8111

道順：国電目黒駅よりバス大井競馬場・永代橋  
行日吉坂上下車，東京駅（中央郵便局前）  
よりバス等々力行日吉坂上下車

話題提供

1) 山本義一(東北大)：大気汚染と気候変化の問題  
点(レビュー)

2) 根本順吉(気象庁)：グローバルに見た最近の気  
候変化

3) 樋口敬二(名古屋大)：氷河の動勢から見た今世紀  
の気候変化

4) 河村 武(気象庁)：都市の気候の最近の変化

5) 田中正之(東北大)：放射と気候

6) 磯野謙治(名古屋大)：エアロゾルの生成とその振  
舞

7) 孫野長治(北海道大)：エアロゾルの消滅

8) 松野太郎(東大)：成層圏の汚染問題